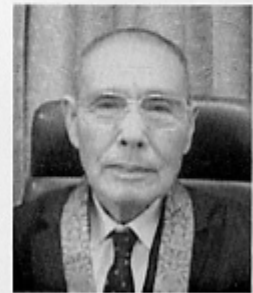


百味講たより

大本山増上寺法主直筆

平成10年11月発行
発行所大本山増上寺
百味講報企画部
発行者 吉野美喜夫

第3号



大本山増上寺執事長
野呂幸進上人

苦？・喜・感謝

八十三

愛知県一宮市赤見（総本山
知恩院・山下現有大僧正台
下生地）の農百姓五兄妹の
次男として生を得玉腰幸庫
（コンゴ）は小学校を卒へ
七才、父母兄妹と離れて
小牧市西林寺に入寺、師・
加藤諦進師の弟子となり、
得度僧籍に入り、玉腰幸進
と改名、小牧中学、大正大
学・佛教学科専門部、学部
を卒業、昭和十五年二月川
崎市教安寺（野呂辨充）法
嗣として入寺、野呂幸進と
なる昭和十五年十二月現役

甲種合格、二十三才にて甲
府聯隊に入隊一週間后東京
芝浦より北支済南に赴き、
現地教育を受けて六年間軍
隊生活、昭和二十一年一月
三十一日、北支天津より戦
後混乱の内地に帰国、焼土
と化した焼け野原の川崎へ
鐘樓、山門のみの教安寺に
帰り焼トタンを集め、仮小
屋ドラム缶の野天風呂を急
造、小牧西林寺師僧より衣
帯、又西林寺裏堂の木像を
頂き教安寺本尊阿弥陀如来
として奉安し、豊もない、

本尊阿弥陀如来の前に一人
念仏を唱え・・・誓い教安
寺再建、第一歩省みて苦勞
しましたが、昭和二十七年
四月教安寺開山一蓮社乗譽
上人教安和尚四百回忌法要
を厳修し、七年間にて木造
本堂、庫裏書院を一応整備
し大本山増上寺権尾大僧正
台下の御導師、又養父先代
辨充老師も京都知恩院勢至
堂より帰山して頂き、開基
四百年法要が出来た事がこ
れが苦・喜・感謝でし
た、其の后三十五年川崎市

区画整理事業其他の關係で本堂（百坪）鉄筋半地下に改築、五十年書院庫裏を三階建に改築、一乗會館を新築現在に至っております。

第二の苦・・・喜・・・感謝

昭和三十八年一月、三十日間の行程の印度仏跡参拝に縁あつて参加、インド釈尊成道聖地、ブツダガヤ大塔夜明前、菩提樹下、金剛宝座、端座静慮、一心清淨、合掌念仏、思いを三千年の往古に還し、佛蛇世尊を拝し即ち佛跡参拝の感謝が胸に焼き付き、以後十六年間一月になるとブツダガヤ聖地へと足が向い・・・印度日本寺建設、國際佛教會館保育施設匡療施設等、整備建築大事業に参加させて頂いた事が人生僧として喜び感謝している私です。これは自己満足の第二の喜・・・苦でもありません

第三の苦・・・喜？・・・感謝

平成元年増上寺開山猶譽上人五〇年遠忌法要、四月十六日唱導師の役を拝命、当日前夜来の雨、増上寺

に向う朝、暗雲、高速道路は十米先

真暗、運が強いのか、奇跡か、佛天加

護か、増上寺到着十時過ぎ荒天雨も

やみ十一時過ぎて薄明り一時には晴

天となり、練り行列、庭儀式、法要

無事、唱導師の大役を円成させて頂

いた感謝・・・今も思い出しており

ます。平成四年四月、思はざりし大

本山増上寺執事長の要請・・・思は

ず困惑苦慮、再三辞退・・・これも

ならず、五月十六日佛弟子、人生最

後の奉仕と胸に秘し執事長に就任、

以来六年増上寺關係機官諸上人と協

議、増上寺多年懸案の増上寺會館改

築整備を第一目標と定め、六年、御

法主台下の御教助、關係諸上人の讚

意を得て、議決機関の議決を頂き、

総予算三十四億の大事業に発足邁進

専念、全国寺院住職、壇信徒講中有

縁の教導御支援のおかげで工事も順

調に進行中、今年九月には會館上棟

式を、十一月には講堂工事に着工予

定にて皆様と共に本堂阿弥陀如来宝

前に開山上人、歴代諸上人、壇信徒

各家先祖靈位に増上寺二十一世紀に

向つて心を洗い生きる力を育てる會

館建設整備円成の喜びと感謝の法要

を夢に日々を追っております愚僧御

教助を特に懇願申し上げます。

苦・・・喜・・・感謝・・・合掌

野呂幸進

八十三歳

剣の心



法衣商 浩
古島

古来より日本刀は武器だけでなく、宗教的神秘的な霊物と見なし、一種の信仰とも称すべきものとして、三種の神器一つとして「草薙剣」と伝えられている。武術として戦の道具として使われた、戦国時代を経て、木刀の組太刀の形稽古から本質を失ったのに飽きたらず、中西忠太（中西派一刀流）が竹刀・こて・を発明して現在に至る。飯條長威斎、僧「慈音」上泉伊勢守、柳生一族、多くの剣聖より、刀（竹刀）を真剣とし、常に生死を念頭において、一刺一打を生命を考えて修行し、ただ己を守る武器だけでなく、剣を通して

「道」として昇華されたのが剣道であります。剣道の修行により一度剣を手にして相手にした場合には五体、敏捷確実、洞察力、判断力、実行力が養われ、身体も強健となし本体（浩然の気）が出来る。日本古来の伝統なる独得の文化が剣道なのだ。この様な文化を良く理解していない人達が戦争の武器が少ない我が国としては剣を武器に使われて、「殺人剣」として使われた為にファシオだと言われて戦後追放の憂目を見た。明治維新を無血開城で江戸城を明け渡しにつくした。三舟（勝海舟・山岡鉄舟・高橋泥舟）剣を極めた人達です。現在全日本剣道連盟では昭和五十年発布され「剣道の理念」では（剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である）とあるが、本質を忘れて、剣道競技にすぎず、私利私欲に走り、剣道の本質を理解せず打突剣道勝負にすぎない。日本を代表する橋本前総理もロシアに行きパホームンス剣道と言うものを行い、全剣連から特別段位を送ら

れたとのこと。現在の経済危機、人心荒廃した現在真の剣の道を通して修行してゆくことだ。幕末の剣客島田虎之助の言葉に「それ剣は心なり。心正しからざれば剣また正しからず。すべからく剣を学ばんと欲する者は心より学ぶべし」先日来日した韓国大統領 金大中氏は政治理念の為、生死をかけて実行してきた信念が剣道で言うこれが「浩然の気」である。私達は戦後物質優先の思想を植え付けられて本来伝統の日本文化を抹殺され物質文明の悪いところが現在を謳歌しております。アメリカ社会の悪い文化を学び本来の良い所を学ばず、現在の危機が訪れているのではないか。本来の日本独自の文化を再認識して我が国の社会を再構築しなければならぬ。剣を学ぶ者は剣を通して「活人剣」として家庭、社会、国家に対して寄与すべき事が剣道修行の心ではないか。

仏心入魂



夫和山本師仏

百味講たよりも今年で第三号となります。今回百味講の皆様のご推薦を賜り、僭越ながら原稿をださせて頂きます、仏師の山本でございます。

何を書くべきかと思案しましたが自己紹介を兼ねて、仏像の製作及び修復（復元）といった仏師の仕事と、今は亡き三人の師匠についてお話ししたいと思えます。まず、私が仏師の道に入りましたのは、幼き頃より先代の父の仕事を見て育ったのが大きな要因になっております。仏像を彫り上げている父の姿を自然に受け入れられるとともに、次第に興味をもち、いつしか自分も彫ってみたいという気持ちになっておりました。高校を卒業間近、その頃、父はずでに年をとっておりましたので、大学に進学

しては遅い、父の持っている技を自分が受け継いでゆきたいと思い始めました。この様な思いが心を揺らし、父の通ってきた道を私も歩こうと決心をし、父に弟子入りしました。まずは道具の研ぎ方、手入れの仕方など基礎的な事をたたきこまれました。道具の切れ一つで仕事の速さも違えば、仕上りの善し悪しもでてしまうのです。道具が切れれば切れるほど良い仕事が出来ると言うことを学びました。この仏像は何かで磨いたのですかと、よく人から聞かれることがあります。木に艶があり光って見えるからだそうです。私は切れる刃物で木を削れば木に艶がでて、肌をあわせてみるとすべすべしているのがわかりますとお話します。そして、父から仏像の修復（復元）に関するさまざまな知識と方法をも学びました。修復（復元）とは、作られた当時の状態にかえすという重要な役割があります。二百年・三百年前に作られた仏像を、自分の手で二百年・三百年先にと残るように、しっかりとした仕事をしして伝えていかなければなりません。その為には、仕上げてしまえば

見えなくなってしまう下地の仕事も重要で有ります。父は重要文化財も手掛けておりましたので、古来より伝わる、漆による木屎・目張り・布きせ等の下地仕事は、欠くことの出来ない大事な手順だということを教えられ、仏像修復のいろはを学びました。その父も昭和六十三年に他界し、後に本やテレビで東大寺仁王像の修復（平成の大修復）の方法等を見た時、父に学んだものとまったく同じ工程であった事に、驚きと共に感動をし、父に感謝しました。父から学んだ全てが今の私の大きな財産であるのはいうまでもありません。そして、その父が決めたもう一人の師匠がおります。自分で教えただけでは甘えがでるということで、浅草の仏師関根西雲氏にも弟子入りをしました。この方は高村光雲↓山本瑞雲と流れをくむ方で、阿井瑞岑の弟子になる方です。この師匠は、私に目を肥やせと言いました。良いものを見る目がなくては良いものは彫れません。そこで私は暇を見つけては、各地の寺院はもちろん色々な展覧会や個展を見て回り、仏像のお顔の表情・手足の動きや丸みなどを研

究し目の勉強をしました。そして仏像を製作する上での、割り出しや木割法などの材料の木取り方や、荒彫り・小造り・中仕上げ・総仕上げという仏像の仕上げ方など基礎を徹底的にしこまれ仏像の種類（如来・菩薩・明王・天部・羅漢等）の違いによる割り出し方や手順など応用に至るまでの一通りを学びました。二人の師匠が亡くなられた後も更に仏師として道を深めたいと思い、父の仲間で、日展の審査員を努めておられた西村房藏氏の工房を幾度となく尋ねました。そこでは粘土で原型の取り方を教えていただきました。粘土で原型を取る事によつて、絵では書けない複雑な姿や微妙な形も、彫る前に納得のいくものに近づかせることができ、直彫りでは難しい全体のバランスやフォルムをだす事ができます。更に粘土を石膏におこしかえて、その石膏の原型から一点一点をひろい上げて、木に写し変えて彫っていくという星取り方法で寸分たがわぬ像を彫り上げる事ができます。特にお顔はこだわるところであり、粘土での原型のうちに充分に吟味しておけば、思い通りのお顔に仕上げ

られます。また師匠にはもう一つの仕上げの素晴らしさを教えて頂きました。師匠が仕上げた仏像には、刃物の切れによる一彫一彫の細かいのみあとが綺麗に整い艶があり、それは素晴らしいものであります。私はその仕上がりに感動し、私もこの様な仕上げが出来る様になりたいと思いつつも足を運びました。やがて少しずつ私の仕事を認めていただくようになり、師匠から「この像を仕上げてくださいか」と依頼され、仏像を仕上げさせて頂いた時は、本当に嬉しかった事を今でも忘れません。三人の師匠からは、手取り足取り指導してもらった事はありません。とにかくよく見て頭に入れておけと言われて、一つ一つ盗んでいったものです。今ではその三人の師匠は他界され居られませんが、私の手に何かを残してくれたように思います。日々精進し、一生をかけて皆様が自然と手を合わせていただける様な仏像を造り続けていきたいと思えます。最後になりましたが、これからも百味講の為は勿論のこと、御本山の護持発展に微力ながら力を尽くしてゆく所存でございます。

百味講講章誕生

世の中には、徽章として使われている紋章が数々あります、公人としての徽章、校章、社章等々様々です。この度、我が百味講にも講章が誕生しました。このデザインは、江



戸時代より続いていると言われる古い歴史を持つ我が講「永遠に光り輝く」と言う意味で考案されました。（考案者は講員・安部一郎氏）講員各位には一人一人が「大本山増上寺御用達百味講」の代表としての自覚を持って日々精進されるよう、講章並びにネクタイピンが配布されました。



百味講定例会記念写真

平成十年六月百味講定例会を大本山
増上寺の課長職の方々をお招きして
盛大に開催いたしました。
当日は新講師のメンバーも加わり益
々講の組織も充実して参りました。
今後も皆様の協力のもとご本山の為
に尽くして参ります。



(右) 小沢課長・藤網氏



(左) 渋谷課長・浜田氏

当日のスナップ写真集



熱唱される久家課長



大室課長

浄土宗
袈裟・法衣専門

(有) 吉野法衣店

〒160-0012 新宿区南元町17
TEL03-3355-2168 FAX03-3355-2204

御袈裟・法衣専門

太田法衣店

〒121-0076 足立区平野2-15-16
TEL03-3883-3225 FAX03-3883-1634

伝統の技
三代にわたる信頼

(有) 古島法衣店

〒111-0041 台東区元浅草4-2-1
TEL03-3842-1289

総合美術印刷

(有) 協栄社

〒135-0007 江東区新大橋2-14-8
TEL03-3631-4758 FAX03-3631-4767

仏壇・仏具

(株) 瑞祥浜田

〒111-0042 台東区寿2-9-13
TEL03-3844-9473 FAX03-3844-5017

表装・額装・襖一式

石森表具店

〒108-0073 港区三田-9-14
TEL03-3451-3138

仏壇・仏具 製造復元

佛師 山本和夫

〒145-0063 大田区南千束3-28-5
TEL03-3727-1122 FAX03-3727-1122

仏壇・仏具

(株) 安田松慶堂

〒104-0061 中央区銀座7-14-3
TEL 03-3542-5771 FAX03-3546-2140

増上寺謹製・三縁クッキー

(有) ポエム洋菓子店

〒174-0046 板橋区蓮根1-18-11
TEL03-3966-2324 FAX03-3966-2398

念珠・記念品

(有) 平野屋四谷店

〒160-0004 新宿区四谷2-8
TEL03-3355-2250 FAX03-3355-2429



大本山
増上寺
御用
達
百
味
講

仏壇・仏具

(株) 濱田商店

〒111-0042 台東区寿2-10-9
TEL03-3841-4965 FAX03-3843-2518

葬儀・式典企画運営

富士典礼

〒142-0031 品川区西五反田1-26-7
TEL03-5434-2210 FAX03-5434-0860

葬儀のご用命は
古い信用・新しいサービス

(株) 牧野総本店

〒108-0074 港区高輪1-21-1
TEL03-3445-0506 FAX03-3445-0508

懐石料理

(株) ヤマザキ

〒253-0027 茅ヶ崎市ひばりが丘6-1
TEL0467-86-4016 FAX0467-83-9436



大
本
山
増
上
寺
御
用
達
百
味
講

創業寛政二年 七代目

(有) 石政石材店

〒108-0071 港区白金台4-5-7
TEL03-3441-1483 FAX03-3441-3156

思いとどける ころろ伝える。

(株) 日本香堂

〒171-0014 豊島区池袋3-18-12
TEL03-3973-7111(代) FAX03-3530-1238

お花で思い出を永遠に

(株) 花 幹

〒143-0024 大田区中央8-36-5
TEL03-3755-2120 FAX03-3754-4687

各種ご用命は
御本山御用達の百味
講各店へ！